

実証実験

寒冷地テストフィールドでは、これまで松沢地区の方にご協力いただき、実証実験を行ってきました。厳しい環境下でのお弁当の配送や融雪剤の散布を実施。ドローンが寒さや雪にどう対応できるか、実際の運用を想定した実験が行われました。

今後は、冬期間だけでなく、1年を通じた実証実験の受け入れを行う予定です。



南会ドローン中学校

南会津地方振興局では、若者の人口流出対策と新たな産業人材の育成を目的に、旧檜沢中学校を活用して「南会ドローン中学校」を開校しました。

操縦技術を学ぶ「操縦士育成コース」と、地域での実践に繋げる「活用人材育成コース」の2つのカリキュラムがあり、受講生は、民間ライセンスの取得や、農業・林業・観光分野でのドローンの活用について学びます。

活用人材育成コースには、全国から受講生が参加し、地域課題への新たなアプローチとして注目を集めました。

引き続き町は、福島県と連携してドローンを活用した施策を展開していきます。



～ドローンを飛ばすには？～

機体重量が100g以上のものを**屋外で飛ばす**際には航空法の対象となります。以下の飛行方法に該当する場合には、それに応じた飛行申請または操縦者資格が必要となります。

飛行方法

- ・人口集中地区での飛行
- ・夜間の飛行
- ・目視外の飛行
- ・人または物との距離が30m未満

資格の種類

- ・国家資格
 - 一等操縦者技能証明
 - 二等操縦者技能証明
- ・民間ライセンス



写真提供: Amatobu



寒冷地テストフィールド(旧檜沢中学校)



福島ロボットテストフィールドとは？

福島イノベーション・コースト構想に基づき南相馬市に整備された施設で、陸・海・空のフィールドロボットの開発実証拠点です。

実際の使用環境を再現し、ロボットの性能評価や操縦訓練等ができる世界に類を見ない施設です。

ドローン、今や身近な存在に

近年、さまざまな場面で耳にする「ドローン」

かつては、事件・事故のニュースが目立つことがあり「危険なもの」というイメージや、一部の専門家や愛好家を使い「私たちの暮らしからは遠いもの」と思われていました。

しかし近年は、安全に飛行させるための法整備が進む一方で、機器の高品質化・高性能化により、テレビの空撮はもちろん、農業現場での作業支援や災害時の状況確認、建物や橋梁の点検など、さまざまな分野でドローンが活用されてきています。

こうしてドローンは「特別な機械」ではなく、暮らしの課題を解決するための「地域の道具」としての可能性を広げているのです。そしてここ、南会津町においても、ドローンを活用した新たな挑戦が始まっています。本紙では、その取り組みをご紹介します。

寒冷地だからこそできる 新たな取り組み

福島県では、国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」に基づき、浜通りの復興を目的に、次世代産業の集積、人材育成など、先進的な取り組みが行われてきました。この構想では、ロボット、再生可能エネルギーなどと並び、ドローンも重点分野の一つとして掲げられており、実証実験や開発支援が積極的に進められています。

この取り組みを浜通りだけでなく、県全体に広げる一環として、県は「寒冷地での実証実験が可能な場所」を調査。その結果、本町の厳冬期における過酷な自然環境が実験に適していると評価され、旧檜沢中学校が寒冷地テストフィールドとして選定されました。この施設では、福島ロボットテストフィールド(南相馬市)で実施できない、積雪や低温といった冬季特有の条件下での検証が可能です。寒冷地でのドローンの飛行性能や、耐久性を確認できる全国的にも貴重なフィールドとして、企業からも注目を集めています。

ドローンに携わる方にインタビュー



現場の声を聞いてきました！

住

金井沢区

ドローンのイメージが変わった

ドローンによる弁当配達を実際に見てどう思ったか

ドローンといえば小さいものをイメージしていたので、実際に見た大きな機体には驚きました。しかも山を越えて届いたのは本当にすごい。ドローンのイメージが変わりました。

ご自身でドローンを使ってみてみたいと思ったことはありますか

今のところ使う予定はないですが、興味はあります。近所の農家さんも飛ばしていて身近な存在にはなっています。

今後ドローンの社会実装に向けて期待することは

災害時の捜索活動やクマなどの有害鳥獣対策に活用してほしいです。観光PRにも使えそうですし、将来的には人が乗れるようになると良いですね。



区長：鈴木雄蔵さん



農

(株)グリーンカルチャー

大きい農家は積極的にドローンを取り入れるべき

ドローンを導入してどのような変化があったか

ドローン導入により、農薬散布の作業人数が3人から2人に減り、時間も大幅に短縮されました。身体的な負担も軽くなり、農薬を均等に散布できることで、農薬の使用量も削減できています。

ドローンを使って「良かった点」は

操作が簡単で、オート機能やセンサー性能が高く、安全に使うことができました。何より身体の疲労が減ったことが一番の恩恵です。

導入時に感じた不安や今後の活用については

約300万円の初期費用は不安でしたが、導入後の効果で納得できました。今後は肥料散布やマッピングの活用、さらには大型機の導入も検討していきたいと思います。大きい農家は積極的にドローンを取り入れるべきです。



操縦士：武田玄治さん
オペレーター：中山紘樹さん



撮

Amatobu

町内でいち早く組み合わせた

どのような業務を行っているか

測量や空撮、行方不明者の捜索、農薬散布などさまざまな分野でドローンを活用しています。主に南会津町と只見町で飛ばしています。

なぜドローン事業を始めようと思ったのか

当時、国内ではドローンの需要が高まっていましたが、県内はまだまだまだ少なかったんです。そんな中、南会津町でいち早く取り組みようと思ったのがきっかけです。もともと趣味でドローンを飛ばしていたこともありました。

ドローンの魅力、良さを教えてください

空からの景色や地上の地形を確認できるのは、ドローンならではの魅力です。人の目では見られない視点での撮影ができます。

今後どのような活用をしていきたいか

需要がある農薬散布をさらに展開していきたいです。



代表：星尚子さん
操縦士：星拓朗さん



測

(株)皆川測量

日常業務の効率化を図り、更なる生産性向上を目指す

ドローンを導入してどのような変化があったか

河川点検業務で空撮を活用することで、現場作業が効率化され、作業時間が大幅に短縮されました。

ドローンを使って「良かった点」は

人が入れない場所の調査が可能になり、社員の安全確保に大きく貢献。直近だと只見町の雪崩後の状況確認に役立ちました。

導入時に感じた不安や今後の活用については

業界全体で導入が進んでいたため、大きな抵抗はありませんでした。ただし、高度や距離の判断など、操縦面での不安はありました。今後は、地形データの3Dスキャンを積極的に活用し、日常業務の効率化を図り、更なる生産性向上を目指します。災害時には安全かつ迅速な調査手段としても活用していきたいです。ズーム機能などの高性能カメラ搭載機の導入も検討しています。



操縦士：町島隆太さん



ドローンがもたらす

私たちの未来の暮らし

「田舎だから何もできない」
「雪国だから不便は仕方がない」

そんな常識をひっくり返す力がドローンにはあります。冬の深い雪に閉ざされても、日用品や薬が家に届きます。災害で道路が寸断されても、物資を届けられます。急病時には必要な医療機器を短時間で運び、命を守ることがができます。

農業や林業では、有害鳥獣対策にも活躍。夜間や山奥での監視・追い払いを効率化し、人や農作物を守ります。これまで人手や時間がかかっていた作業が、短時間・低負担で可能になります。

さらに観光の分野でも新しい可能性が広がります。山頂からの絶景映像や四季折々の自然を空から発信し、全国へ魅力を届けることができます。

そんな未来を実現するために南会津町は次のステップへ進みます。

STEP1. 普及啓発

地域イベントや体験教室などを通じて、住民・事業者双方にドローンの存在を広く周知。安心・安全な技術であることを伝え、利活用への第一歩を後押し。



STEP3. 住民サービスとして活用

防災支援、高齢者見守り、買い物支援(配送)など、ドローンを活用した新たな住民サービスを展開。ドローンが“生活の便利さと安心”を支える存在に。



STEP2. インフラとして活用

農業や建設、点検、物流など各業種でドローンを導入。作業の省力化・時間短縮・人手不足対策として、企業の生産力向上に直結。地域インフラの一部として定着させる段階。



STEP4. 持続可能な町へ

企業の生産性と地域の暮らしを両立しつつ、環境負荷も低減。人と技術が共に成長する、持続可能な農業・産業・まちづくりを実現。



担当者より

4月からドローン担当となり、展示会や研修会で最先端の取り組みを学んできました。実際に飛ぶ機体を見たり、今回の取材で関係者の声を聞き、ドローンの可能性を改めて感じています。

ドローンが南会津町の新たな産業となったり、南会津町でテストされた機体が全国の寒冷地で活躍したり。

そんな未来を想像しながら業務に取り組んでいきたいと思っています。今後、ドローンの活用に関して町民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますので、ご協力をよろしく願います。



商工観光課 雇用促進係 主事 五十嵐太介

奥が深い!
ドローンの世界!

スピード勝負!
ドローンレース

ゴースト越えしにドローンを操縦し、障害物コースを高速で飛行するレース競技。迫力満点の映像とスピード感が魅力で、日本でも人気広がっています。



空中で競う
ドローンサッカー

球状のドローンを使い、空中のゴールを狙う5対5のチーム対戦型スポーツ。韓国発祥のこの競技は日本でも注目が高まり、学校の部活動として導入するケースも増えています。

